

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：24402

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23830055

研究課題名（和文）1970年代ニューヨークにおける都市再編の思想史的研究：都市の「美学」に着目して

研究課題名（英文）Historical research of the urban restructuring in New York City in the 1970s: From the standpoint of urban “aesthetics”

研究代表者

笹島 秀晃 (SASAJIMA HIDEAKI)

大阪市立大学・都市研究プラザ・博士研究員

研究者番号：30614656

研究成果の概要（和文）：本研究では1970年代以降のグローバリゼーションの進展の中で現れた、都市空間の「美学」的要素のアピールを中軸に据えた都市開発・都市変動のメカニズムを解明するために、歴史資料の分析やインタビュー調査をもとにした事例研究を行った。具体的には、1970年代に進展した、ニューヨーク市 SoHo 地区におけるアーティスト・コロニーの形成を端緒としたジェントリフィケーションのプロセスを実証的にあきらかにした。

研究成果の概要（英文）：This research project was planned to explore an artist-led gentrification in SoHo in New York City in the 1970s, from the standpoint of urban spatial “aesthetics.” In order to figure out the gentrification processes closely, I utilized archival materials which I collected at archives in the U.S. and conducted interviews with people involved in the urban transformation processes, and then explored relationships among stake holders, their motives and activities in SoHo at the time.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：都市の「美学」、ニューヨーク、ジェントリフィケーション、SoHo

1. 研究開始当初の背景

近年の都市社会学（Sharon Zukin 1995, Terry N. Clark 2004）、経済地理学（Neil Smith 1996, Allen J. Scott 2000）、文化経済学（Franco Bianchini & Michael Parkinson 1993）におけるグローバリゼーション論、ジェントリフィケ

ーション論では、1970年代以降の消費・文化産業を基軸とした都市開発の増加が、社会構造の変化との関係の中で検討されてきた。なかでも、デヴィッド・ハーヴェイは、都市経営における「倫理」（「管理主義的都市経営」）から「美学」（「企業家主義的都市経営」）へ

の転換というフレームワークを提示し、上記の都市変動についての重要な理論的基盤を示した (David Harvey 1989=1997, 1990=1999)。都市の「倫理」(「管理主義的都市経営」)とは、戦後の欧米諸都市ですすめられた、フォーディズム・ケインズ主義に代表される大量生産大量消費・国家による再分配制度を中軸とした都市経営を意味する。都市の「美学」(「企業家主義的都市経営」)とは、1970年代初頭以降の世界的なスタグフレーションを経て弱体化した都市が、外遊資本を獲得するために投機的なプロジェクトを主軸とし、結果、ウォーターフロントやジェントリフィケーションなど、誘因となる審美的側面を重視する都市経営を意味する。ハーヴェイの指摘が重要なのは、都市経営における政治経済的な実践だけではなく、思想や他の社会関係までもが審美性に収斂する動向を指摘している点であった。申請者はこれまで、1970年代前半以降の都市経営における「審美性」への収斂のメカニズムを、プロセスの多元性に着目し実証・理論の二側面から研究してきた。

2. 研究の目的

これまでの申請者の研究の主眼は、理論研究にあり相対的に経験的知見が弱かった。それゆえに、理論的命題をより具体的に検討し議論の精度を上げるために、特定の都市に焦点をあて、都市再編のプロセスを実証的に研究するという本申請研究の着想へと至った。これまでの理論的知見を実証する事例の選択においては、ハーヴェイやクリスティーン・ボイヤーも指摘しているような (Christine M. Boyer 1988, Harvey 1990) 事例の典型性、また申請者が既にニューヨークを調査しているという対象地へのアクセシビリティを鑑みて、ニューヨーク市マンハッタンを対象とすることとした。

本申請研究で、対象とする区域は、SoHo (北

は Houston Street、南は Canal Street、西は Thompson Street、東は Crosby Street に囲まれた 20 ブロック程度) を中心としつつ、その周囲の Greenwich Village、East Village も含むローアー・マンハッタンである。ローアー・マンハッタンは、ズーキンの研究で示されているように、都市の「美学」化の典型例である。対象時期は、1960年代から1970年代とする。対象となる都市現象は、ロフトのコンドミニウムへの改築、公園・ギャラリーなど文化施設の増加、ミドルクラスを対象とした小売店の増加などのジェントリフィケーションである。

研究の第一目的として、上記の空間変動が、「いつからいつまで」、「どのような段階を経て」、「結果としてどのように変化したのか」という具体的な事実認識を、人口・職業分布・小売店・住宅に関わる統計資料、ゾーニング法規などの行政資料、電話帳、また都市計画図や写真といった空間的なデータも含めた一次資料を用いて明らかにする。この作業は、ズーキンなどの専攻研究でなされていたものであるが、専攻研究の再検討の目的や、本国ではまだ着手されていない対象であるので一次資料の収集という目的もかねて行う。第二の目的は、ジェントリフィケーションに関与したアクターの「思想」と「行動」の追跡である。個人ライブラリーに所蔵されている書簡や文書、また新聞・雑誌などのテキストを、まずは、時代ごとに整理し、複写ないし記録をとる。言語化されたテキストの収集 (コピーや写真による記録)・整理を通して、「思想」と「行動」を明確に位置づける。

3. 研究の方法

本申請研究では、1960-70年代進展したローアー・マンハッタンの「美学」化のプロセスを、関連諸アクターの「思想」と「行動」に

着目することによって明らかにする。調査の対象となるアクターは、ローアー・マンハッタンの「美学」化に大きく寄与したと考えられる三つの動向、①「貴族」主義的な権力エリート、②対抗文化的なアート・ムーブメント、③近代主義的な都市計画に対抗する地域住民のコミュニティ保全運動、である。具体的な調査研究は、次の二つの段階に分けて実施される。①ローアー・マンハッタンのジェントリフィケーションをめぐる、統計データ、都市計画関連法などの資料分析を通じた現象の精緻な実証的記述。②変動に関わった三アクターの文書・書簡などを収蔵したアーカイブにおける、一次資料の収集・分析、実践者たちが当時抱いていた「思想」とその帰結としての「行動」、また多様な利害関係の解明である。

4. 研究成果

(1) SoHo 地区の空間変動の記述

様々な歴史資料やインタビューデータの分析の結果、次に示すような SoHo 地区の変遷が明らかになった。

SoHo 地区では、1950 年代後半以降の産業の空洞化のなかで、工場建築物であるロフト建築の空室が拡大しはじめた。加えて、1950 年代には、ニューヨーク市のロバート・モーゼスが Lower Manhattan Expressway の建設を計画していた。この計画は、SoHo 地区を含む、マンハッタンのダウンタウンの一部が数年内に取り壊されることを意味していた。産業の空洞化と Lower Manhattan Expressway の計画は、衰退しつつあった SoHo の再開発のための計画や、新規参入者の意向を宙づりにするものであった。なぜなら、計画が実現した場合、数年以内に確実に地域の取り壊しが行われ、立ち退く必要があったからである。このことは、空室になったキャスト・アイアン建物に新たなテナントが

入らず、賃料が下落する要因となった。

しかし、宙づりになった地域の計画による破格の低家賃が、意図せざる変化を SoHo にもたらすことになった。1960 年前後から始まる、広いロフトスペースと安価な賃料を求めたアーティストの居住である。冷暖房・風呂・キッチンなどがない空間、工場に行き来するトラックの騒音など居住環境は極めて悪いものであったが、広いスペースと安価な家賃のため、アーティスト自身がロフトを居住用空間に改造しコミュニティが形成されていった。しかし、アーティストの居住は、ニューヨーク州の建築基準法、市のゾーニング法に違反する違法な居住であった。

19 世紀にたてられたロフト建築は老朽化が進み、また消火設備も不十分であったため、居住者の増加にともなって火災が頻発。当時のニューヨーク市建築局長は、1960 年代頃の SoHo 地区を「地獄の 100 エーカー Hells Hundred Acre」と呼んだ。

1960 年代初頭以降、ロフト居住の合法化をもとめるアーティストの運動が SoHo では拡大した。その代表的なものが、Artists Tenants Association (1961 年)、SoHo Artist Association (1968 年) の活動である。1961 年～1971 年にかけて、アーティストの運動の帰結として、ニューヨーク州・市の都市計画法が改正され、ロフト居住が合法化された。「SoHo (South of Houston Street)」として名付けられ、初めて、フォーマルに、SoHo が誕生したのもこの時期である。

1971 年のロフト居住が合法化されると共に、非アーティストもロフトに居住し始める。居住空間としてのロフト市場が一举に拡大した。また、同時進行でコマーシャル・ギャラリーが増加するなどして、当該地区の賃料が一举に値上がりし、多くのアーティストが立ち退くことになった。1975 年には、SoHo

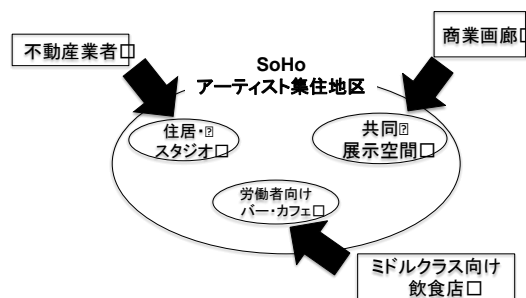
のロフトも、マンハッタンの他地区における同面積の家賃平均と並ぶ (Zukin 1982: 10)。70年代後半以降はコマーシャル・ギャラリーの集積、1980年代後半以降はブランドショップの集積地へと変貌していったのだった。

(2) 変動に関わったアクターの分析

調査の結果、SoHoの都市空間変動には、図1に示すように、アーティストのロフトを取り巻く、1) 不動産業者、2) 商業画廊、3) ミドルクラス向け飲食店などの、ステークホルダーの進出が影響していたことが明らかになった。今回の調査プロジェクトでは、特に1) 不動産業者の進出と、その進出に関わった自治体、およびアーティストの同行に着目することで、詳細に「思想」と「行動」を検討した。

先行研究の知見では、SoHo地区における不動産業者の介入に関しては、Growth Machineと名付けられた自治体と不動産業者の緊密な関係性と実践が注目されていた。すなわち、中心市街地の地価などの不動産価値を高めるための様々な実践である。しかし、調査の結果、特にSoHoの空間変動を分析する上で重要になる1971年のゾーニング法改正に関しては、まったく異なるアクターごとの「思想」と「行動」があることが明らかになった。具体的には、都市法改正のプロセスの中で不動産業者の介入はなく、また自治体においても不動産価値を高めるなどの都市開発的な意向がなかったことが、インタビュー調査な

図1 SoHo地区の空間変化の模式図



どを経て明らかになった。他方、自身の居住の権利を追求するためのオルタナティブな陳情活動を行ったアーティストにおいても、その集団属性をみるならば多様な動機があったことが明らかになった。特に、ゾーニング法改正に携わった数名のアーティストは、副業を持った高学歴な人々で、自治体と交流を持つ中で、SoHoの空間を変えていこうとした状況が明らかになった。すなわち、SoHoの空間変動のプロセスにおいては、開発を進めたい自治体や不動産業者、自身の権利を守りオルタナティブな表現活動を望むアーティストという、図式的なアクターの「思想」と「行動」の構造に必ずしも収斂しない多様な人々と意見の構造があったことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① 笹島秀晃、都市における秩序と多様性：ジェーン・ジェイコブスと割れ窓理論、吉原直樹編著『安全・安心コミュニティの存立基盤』御茶の水書房、査読無、2013、329-56

② Hideaki Sasajima, From Red Light District to Art District: Creative City Projects in Yokohama's Kogane-cho Neighborhood, *Cities*, 査読有、2012, 29.

③ 笹島秀晃、創造都市と新自由主義：デヴィッド・ハーヴェイの企業家主義的都市論からの批判的視座、社会学年報、査読有、41、2012、79-89.

④ 長尾謙吉・笹島秀晃、創造都市をめぐる省察、日本都市学会年報、査読有、45、2012.

〔学会発表〕（計 6 件）

- ① 笹島秀晃、都市法によるアーティスト・コロニーの制度化：1971 年ニューヨーク市 SoHo のゾーニング法改正プロセスの史的研究」、第 30 回日本都市社会学会大会、於立教大学、2012 年 9 月 8 日
- ② Sasajima, Hideaki, Artist movements to legalize loft living in SoHo in the 1960s and 1970s, ISA Forum of Sociology (RC47-RC21 Session: Urban movements in the new metropolitan context, 2012.8.12, Buenos Aires, Argentina.
- ③ Matsumoto, Ayako, Hideaki Sasajima and Motohiro Koizumi, How Can and Should We Evaluate Art Projects?: Case Study on Setouchi International Art Festival 2010, 17th International Conference of Association for Cultural Economics International, 2012.7.23, Kyoto, Japan.
- ④ 長尾謙吉・笹島秀晃、「創造都市をめぐる省察」、近畿都市学会、奈良県文化会館・2011 年 11 月 19 日
- ⑤ 笹島秀晃、1970 年代、ニューヨークの都市再編について：都市の「倫理」から「美学」への転換、第 84 回日本社会学会大会、関西大学、2011 年 9 月 17 日
- ⑥ 笹島秀晃、1970 年代ニューヨーク市におけるジェントリフィケーションの多角的構造、第 58 回東北社会学会、宮城学院大学、2011 年 7 月 18 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹島 秀晃 (SASAJIMA HIDEAKI)

大阪市立大学・都市研究プラザ・博士

研究員

研究者番号：30614656

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし